

NPO法人 自立生活センター STIP ेटどがわ 会報

えぬぴーおほじん
じりつせいかつせんたー
すてっぷえどがわ
かいほう
すてっこぱらだいす
おーるふあわんだらおー

STIP っ子パラダイス

all for ワ
ダヲー!!

せつりつ しゅうねん き ねん ごう
設立5周年記念号

祝



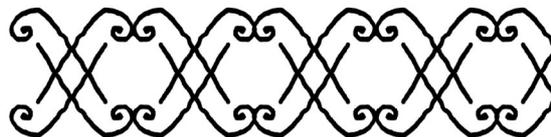
目次

もくじ

せつりつ 設立から5年…そして、これから…	ねん 5年	よしもと 良元	りゅうじ 竜次	_____	4
せつりつ 設立から5年…これからの思い	ねん 5年	おも 今村	いまむら のぼる 登	_____	7
きこうぶんこーなー 寄稿文コーナー					
ぜんこくじりつせいかつせんたー 全国自立生活センター協議会代表	せんたー センター	きょうぎかいだいひょう 協議会代表	なかにし 中西	しょうじ 正司	_____ 13
でいびーあいにほんかいぎじむきょくちょう DPI日本会議事務局長	おのうえ 尾上	こうじ 浩二	_____	14	
いまい 今井	しろう 志朗	_____	_____	_____	16
えぬびーおーじりつせいかつせんたー NPO自立生活センター	くれぱす くれぱす	じむきょくちょう 事務局長	みかた 見形	のぶこ 信子	_____ 17
なんびょう 難病	かいあげんすと の会	やまもと 山本	はじめ 創	_____	18
はちおうじしかくちょうかくしょうがいしやさぼーとせんたー 八王子視覚聴覚障害者サポートセンター	しよくいんいちどう 職員一同	_____	_____	_____	18
じりつせいかつせんたー 自立生活センター	はんずせたがやりじちょう HANDS世田谷	よこやま 横山	あきひさ 晃久	_____	19
えぬびーおーほうじんぼー NPO法人ボータレス	だれすりじちょう 理事長	みやはら 宮原	てるお 映夫	_____	20
じりつせいかつむちゅうせんたー 自立生活夢宙センター	りじちょう 理事長	ひらした 平下	こうぞう 耕三	_____	20
とうきょうとりつえどがわようごがっこう 東京都立江戸川養護学校	こうちょう 校長	くにえだ 国枝	たかゆき 孝行	_____	21
かつやみつのが 勝矢光信	_____	_____	_____	_____	22
ゆうげんがいしやばむっく 有限会社パムック	だいひょうとりしまりやく 代表取締役	かわばた 川畑	よしとも 善智	_____	24
しゃかいふくしほうじん 社会福祉法人	つばき つばき	ちの会 ちの会	いえ いえ	しょちょう 所長	_____ 25
もり 森	たいいちろう 泰一郎	_____	_____	_____	26



目次
もくじ



りようしゃ 利用者さんからの寄書き	よせが	28
へるばー ヘルパーさんからの寄書き	よせが	29
すてっぶ STEPの歩み	あゆ ねんかん あしあと 5年間の足跡	31
じりつせいかつせんたー 自立生活センター	い き さん ぶら ざ なかの 行って来たサンプラザ中野くんだー！	36
くっきんぐっど COOKINGGOOD	くらぶ ♪ ほうこく 報告	38
とでんあらかわせん 都電荒川線	の で つちや みねかず 乗って出かけてきました！ 土屋 峰和	39
とでんあらかわせん 都電荒川線	の で こうご ぜんいち 乗って出かけてみよう！ 向後 善一	41
たなばた 七夕	かいほうこく 会報告	43
ほらんていあふえすていばる ボランティアフェスティバル	ほうこく 報告	45
でいびーあいせかい DPI	かいぎかんこくたいかいほうこく 世界会議韓国大会報告	47
ばーべきゅー バーベキュー	たいかいほうこく 大会報告	49
くりすますばーてい Xmas Party	ほうこく 報告	51
かつやみつのが 勝矢光信	じょうほうはっしんこーな 情報発信コーナー	54
しんすたっふ 新スタッフ	しょうかい 紹介	57
かいいんほしゅう 会員募集		58

せつりつ ねん
設立から5年・・・

そして、

これから・・・

りじちよう よしもとりゆうじ
理事長 良元 竜次

この度、私共、自立生活センターSTEPえどがわが5周年を迎える事が出来ました。これも多くの方々に支えられ活動が出来た事と思い、心より感謝申し上げます。

今から6年前のある日、電車の中での再会が始まりました。その頃の私は、数年活動に関わってきた介助犬（現、身体障害者補助犬）普及活動に区切りをつけ新たな活動を模索していました。私は、八年前、ひとりの女性と共に生きて行く事を決め、この江戸川区で生活を始めました。その頃の私は、バリアフリーのスペースならば、特に介助は必要はなく、生活が出来ました。しかし、連れ合いは、24時間介助を必要としていました。しかし、江戸川区の障害者福祉は、それを認めてくれなく私達にとって、生きて行く戦いの始まりだったのです。深夜、身体が痛くなり寝返りをしなければ激痛で眠れないと、彼女は私を起します。私は、彼女の身体を持ち上げられるわけでもなく、手を引っ張ったり、パジャマの端を引っ張ったりと冬でも汗をかくほど、自分達でやらなければ駄目でした。そんなある日、私は、「俺だって障害者なんだ！」と、つい叫んでしまい、二人にとって辛い日々が続いたのです。このままじゃ駄目だ、自分達で何とかして行かなければ、そんな思いが、あの日、私達を電車に乗せたのかもしれません。そんな頃、養護学校時代の先輩が言っていた「自立生活センター」と言う言葉を思い出しました。障害者が地域で生きる為に必要なサービスを提供する場所。そんな言葉を思い出したのです。話は戻りますが、6年前のそんなある日、電車の中で同じ地域に住む、現、事務局長の今村と再会しました。彼とは、以前、私が介助犬の活動の関係で少しですが話した事がある程度でしたが、お互い顔を覚えていて「今、何しているの？」だったと思います、そんな声の掛け合いがあり、それから数日後、お互いのやってきた事やこれか

らやりたい事などを語り合う時間をつくる様になり、自分達の経験を生かした
 事がしたい。障害者だから出来る事をしたい。なによりもこの地域でどんなに
 障害が重くても当たり前前に生きられるようにしたい。その頃の私達にとって
 は夢のような話だったかもしれないが、その夢を目の前の現実と向き合い現実
 にしていきたい。障害者3人の気持ちが語り動いて行ったのだと思います。そ
 んな頃、区の相談員研修で講師としてお出いただいた、当時、町田の近藤秀夫さ
 んと話す機会があり、その時、「まずは、障害者の為の無料相談をやったら良い
 よ。」と言ってくれたことを思い出します。電話とテーブル一つで出来るから、
 そうすれば、色々な人と出会えるし自分達の宣伝にもなる。その言葉をうけ、
 私達は、週3日、地域の公民館を借りて宣伝のチラシを作り、「障害者のた
 めの無料相談」を始めました。しかし、誰も来ない日々が何回も続き、こんな
 ことやっていて意味があるのだろうか？と思ってしまう事もあり、辞めたくな
 った事もありました。振り返って見ると、多くの人達が来てくれたわけではな
 かった。しかし、色々な悩みを聞いた。色々な声が聞けた。それと、私達がこ
 れからやろうとしている自立生活センターのスタッフとして大事な事、ひとの
 話を聞くというトレーニングにもなった。この頃から私達は、色々な人達と
 出会っていく事、それが今のSTEPえどがわの原動力に繋がった気がしてい
 ます。その後、福祉政策は、措置から支援費へと大きく変わろうとしていまし
 ました。私達も自立生活センターSTEPえどがわ準備会と称して制度の公開
 勉強会を開催しました。そこに来ていたのが現、コーディネーターの市川でし
 た。市川は、元々、今村の自薦介助者でもあった事で、私達のこれからの活動
 に共感してくれていたのか、二つ返事で活動に参加してくれました。しかし、
 健常者である市川、元々、健常者として生きてきた中途障害の今村、丸田、
 先天性障害の私と、それぞれの生きてきた背景が違うもの同士が語り合う中
 に、ずれが生じてきた事も多くありました。この頃が一番辛かったかもしれま
 せん。私は、障害者として在日韓国人として生まれ育って来ました。そんな中
 で、多くの差別や偏見もうけて来ました。それを今の日本社会では、言えな
 かった。言ったら嫌われる。それよりも健常者や日本人と仲良く生きる生き方を
 述べた方が好かれる。でもそんな生き方はもう嫌だ！と思う気持ちもあって、
 「自立生活センターをやってみよう」と思ったはずだった。しかしそう思って
 活動しようとしているのに、中々思いが伝わらない、伝えようと話すとな顔
 をされてしまう。これじゃあ、今まで私が生きてきた生き方と同じじゃないか！

と、本当に悩んだ時期でした。そんな時、ピアカウンセリング講座へ行き始め私の気持ちが変わっていく事に気づきました。自分の気持ちをハッキリと言うことは、駄目なことではない。相手を好きだからハッキリと言うんだということ、それが代表としての私の大切な役割なのだという、健全者と同じ社会で生きたいから言うんだということ。そんなことに気づかせてくれたのがピアカウンセリングだったので。

現在私達は、登録ヘルパーさんを入れて60名近くのスタッフで、STEPえどがわの活動をしています。あの時、3人の障害者がなにかやりたい！という思いで出会った事、それが私達を動かした事、模索する中、夜遅くまで語り合い、時に言いたい事が分かってもらえなくて辛く悲しんだ事、でも、言いたい事をきちんと言うことで、分かりあえて、ちゃんと言って良いのだ！と気づき嬉しくなった事、辛いとき、悲しいとき、嬉しいとき、それは、障害者も健全者も同じなのだと気づき合えた事、そんな全てが今の私達に繋がった5年間だったと振り返っています。これからのSTEPえどがわ・・・何が出来るかわからない、でも、私達が自立生活センターをこの江戸川区で活動し続ける事、それが大切な気がしています。私は、時々思います。行政交渉や抗議行動をする運動体としてのSTEPえどがわ。それは何故？と聞かれたら、「私達は、制度があって生きてるのじゃなく、生きているから制度を作ってきたんじゃないのかな？」と・・・先輩、そうですね？と問いかけながら、そして伝えながら活動する。それがこれからの「自立生活センターSTEPえどがわ」でありたい。

これからも私共、STEPえどがわを宜しくお願いします。



せつりつ ねん
設立から5年・・・
おも
これからへの思い



じ む きょく ちやう いまむら のぼる
事務局 長 今村 登

へいせい ねんど かげ すてつが せつりつ しゅうねん むか
平成19年度。お陰さまでSTEPえどがわは設立5周年を迎えることができ
ました。これもひとえに、私達を見守り支えてきてくださった皆様が居てくれ
たお陰だと、心より感謝申し上げます。この節目を迎えるにあたり、これまで
の軌跡と今後の方向性について、私なりの思いを綴ってみたいと思います。

ねんかん ふ かえ
■ 5年間を振り返って

せつりつ けい
< 設立の経緯 >

せんてんせいしょうがい こつけいせいふぜん よしもと ちゅうとしょうがい びょうき きんじすとろふいー
先天性障害（骨形成不全）の良元。中途障害で病気（筋ジストロフィー）
の丸田。怪我（頸髄損傷）の今村。この三者三様の3人が東京都江戸川区瑞江
という地で出会ったのは平成13年の秋のことだった。平成9年に民間の賃貸
マンションでは全国初と言われたバリアフリーマンションがこの地で誕生し、
平成13年までに4棟のバリアフリーマンションが瑞江に建てられた。それに
伴い全国各地から車いすユーザーを中心とした障害のある者達がこの
マンションに入居してきた。我々3人もそんな各地から集まってきた入居者
の一人だった。

とうじ よしもと まるた かいじょけんいくせい ふきゅうかつどう いそ わたし くるま ゆーざーむ
当時、良元と丸田は介助犬育成・普及活動に勤しみ、私は車いすユーザー向
けの海外旅行相談、自立生活体験室の運営などを、とある有限会社の収益事業
として手掛けていたが、お互いの接点はほとんどなかった。そんなある日、私
が体験室の営業の為にチラシを持って出かけた時、偶然乗り合わせた電車に居
たのが良元と丸田であった。この時、体験室のチラシを渡したことがそもそも
の始まりだった。私自身、体験室のニーズは必ずあると信じてはいたが、有限
会社の収益事業としては馴染まないことや、そもそも部屋だけ提供すれば事

が足りるものではないと痛感し悩んでいた時期で、良元らも介助犬関係の活動に一区切りつき、今後別の形で障害者への支援活動をやって行きたいと考えてはいたが、具体的な構想までは出来ていなかった時期であった。

そんな3人が電車で出会ったことがきっかけで話をするようになり、お互いの「何かしたい」の気持ちを具現化していくうちに既に20年近い歴史と実績のあった「自立生活センター」にたどり着いた。そうして団体を「自立生活センターSTEPえどがわ」と命名した。

<ビッグウェーブに飲み込まれて初体験>

八王子のヒューマンケア協会の門をたたいたのは、平成14年の晩夏の頃だった。しかし、翌年から支援費制度というものが始まり、障害者の介助制度が大きく変わると知ったのは、なんとその時が初めてというほど、我々の知識や情報はお粗末なものだった。

自立生活センターの特色として、運動体と事業体の両面の活動が重要と聞かされた。活動資金源としては、当時、江戸川区の障害者福祉課の係長であったS氏が我々を応援してくれていたこともあり、S氏のアドバイスでNPO法人格を取得し、国の制度であった「市町村障害者自立支援事業」の認定を受け、その収益を活動資金に充てようと考えていた。しかし、この事業がなくなることが分かり、急遽、全身性障害者等介護派遣事業で私の自薦ヘルパーであった市川を巻き込み、STEP独自で居宅介護事業も運営することを決めた。そして平成14年12月末のJIL常任理事会にてJILの正会員登録を認められ、慌しく準備に取り掛かった矢先に、あの支援費上限問題が勃発し、JIL加盟直後に我々は真冬で極寒の厚労省前に連日通っていた。それが我々の障害者運動のスタートだった。正に時代の転換期というビッグウェーブに飲み込まれ、右も左もよく分からぬまま、びっくりすることだらけの初体験であったが、この体験がその後の障害者自立支援法という更なるビッグウェーブに立ち向かう基礎体力をつけてくれたように思う。

<対立から融和、共闘の5年>

こうして激動の社会背景の中でスタートしたSTEPえどがわだが、内部も激動の日々を送った。特に最初の3年間というものは、お互いが未熟過ぎたこともあってか、意見の対立も多かった。特に代表の良元と私は、年齢が同じ

ということもあって、ピーク時は「お前が辞めるか、俺が辞めるか」といったところまでぶつかり合ったこともあった。しかし、幸か不幸か、その頃グランドデザイン～障害者自立支援法といった更なる激動の超スーパー・ウルトラ・ビッグウェーブが一気に押し寄せたことで、元々「障害者の自立をサポートしていくことで、世の中を変えて行きたい」という思いは共通していた我々は、互いを認め合い、対立から融和、共闘へと移り変わって行けたと思う。この頃から、良元、丸田、市川、今村の理事4名での話し合いが激増し、互いの役割分担が自然と成り立ち始め、歯車がかみ合ってきた感がある。

この間、「代表と事務局長、または理事4人がそれぞれ言うことが違う！」と、頭を抱え悩みつつもついて来てくれたスタッフの皆さんには、本当に感謝している。

■これからへの思い

<初心忘るべからず>

STEP設立の際、障害のある人の地域での自立生活をサポートすることがメインであるが、障害者の暮らしだけが良くなれば良いと思っている団体だと周りの人々に思われるような活動はしたくないと思っていた（実際には障害者の暮らしだけが悪くなることはあっても、良くなることはないのだが）。そこで設立時にポリシーとSTEP訓なるものを掲げた。

ポリシー

All for one, one for all! (みんなは一人の為に、一人はみんなの為に！)

STEP訓

- 1) 諦める前に、どうしたら出来るかを考え、まず やってみよう！
- 2) 無関心であるべからず！
- 3) 想像力と創造性を広げよう！
- 4) いい加減ではなく、『良い加減（グッド・バランス）』を追及しよう！

皆をまとめベクトルを合わせていく為に考え付いたものだが、設立時の忙しい時期に思いついた割には、我ながら良く出来ていると思っている。正直ちゃんと浸透し皆の意識に根付いているとは言い難いが、これからも壁に

ぶち当たった時や迷った時には、このポリシーとSTEP訓に立ち戻って考えを整理していく人を増やして行きたい。なお、5年経った今では、5つ目のSTEP訓として「誰の、何のため」を考えて行動しよう。といものを個人的に付け加えている。

＜今後の展望：国全体＞

国全体の目指す方向性として、私としては10年～20年後を長期的展望、5年～8年後を中期的展望、1年～2年後を短期的展望として分けて、下記のように進んでいってもらいたいと願っているし、進めていけるよう努力していきたい。

長期的展望：財源論からではなく、理念と人権から社会保障制度（国の形）の再構築を！

中期的展望：障害者の権利条約に基づいた国内法の見直し
 サービス法（新障害者自立支援法）と権利法（障害者差別禁止法）とに分けた、法律の制定

短期的展望：障害者自立支援法の見直し

- ・ 応益負担→応能負担
- ・ 一次判定のアセスメント項目見直し
- ・ 主に重度訪問介護の介護報酬単価の引き上げor2,500円程度に全サービス区分単価を統一
- ・ 移動介護を個別給付に戻す
- ・ 国庫負担基準の引き上げと完全義務的経費化
- ・ 精神障害者退院支援施設の撤廃
- ・ 障害者認定の拡大（難病、内部障害等）
- ・ 窓口の三障害統一

＜今後の展望：地域社会＞

このように進むためには、行政や議員に働きかけていくと同時に、地元で如何に理解と賛同を受けた団体になっていけるかが鍵となる。この5年間でSTEPえどがわの存在は地元では知られてきているようには思うが、理解と賛同を得られているかというとまだまだだと言わざるを得ない。個人的には「おらが街のSTEPえどがわ」と、江戸川区民に思われるようになりたい。その

ために J リーグの活動は参考になり得ると思っ**て**いるし、できることなら
東京都の東部地域に J リーグクラブチームを発足させて、それを拠点に誰も
排除しないインクルーシブな地域社会を構築できないかと夢は広がってくる。

ついつい身の丈を超える発想や妄想が膨らんでしま**う**が、うちの抱える一番
の問題であり課題は、地元の障害者で、STEPのピアカン、ILP等の支援
を受け親元や施設から出て自立生活を実現できたという人を出せていないこと
である。相手のあることなので我々だけが焦っても仕方ないが、人口約67万人、
身体障害者手帳と愛の手帳保持者だけで約2万人（多くの人**が**手帳を持たない
精神障害者や難病の人たちの数を入れれば更に増える）という大きな区であ
りながら、自立生活のニーズ、ウォンツが無いはずはない。これは、我々の力
不足にも原因があることはもちろん認めるものの、それだけではない、この国や
地域社会が抱えている（染み付いている）問題にも起因しているように思う。
その問題とは、いわゆる健常者といわれる障害のない人々だけでなく、障害
当事者自身にも気付かないで見過ごしている「人権」という観点の欠如ではな
いだろうか。意図的であろうとなかろうと、結果として人権を認められていな
いという問題点に気付かないのか、気付いても目をつぶってしまうのか、いず
れにせよ声を上げてこれていない現実がここにある。

<今後の展望：実体験から>

これは色んなところで話したり書いたりしているので聞き飽きた方もおられ
るかもしれないが、私は障害のある体とな**っ**て良かったと思っ**て**いる。
少なくとも健常者のままの人生より、心豊かな人生を送ってこれてきている
と思う。健常者のころでも十分楽しく色んな経験をしたと思うが、それ以上
得るものは多いと思う。何故ならば、この障害がある体とな**っ**たことがき
っかけで、それまで見えなかったもの、思いもしなかったこと、気付かなか
ったこと、知ろうとしなかったことetc…と、本当に多くの事柄を考える機会が増え、
表面的なものだけではわからない物事の裏側や繋がりを**感**じ取ることができ
るようになってきたと思えるからだ。一件無関係に思える事柄が実は直接的、
間接的に様々な関連性を持っている。そう気付かされたことが、この活動をや
ってきた最大の収穫だった。

めざ かつどう
<目指す活動>

わたし がんらいどんかん おおけが はじ きづ しゃかい
 私は元来鈍感なので、大怪我をして初めてこういうことに気付かされ、社会
 できごと もんだい むかんしん じぶん か よいけん
 の出来事や問題に無関心だった自分を変えられつつあるが、そんな経験がなく
 おお ひとびと むかんしん と はな わ
 とも、多くの人々が無関心から解き放たれれば、「和」だけでもなく「輪」だけ
 わ わ とうと よ なか
 でもなく、「和と輪をもって尊し」という世の中にしていけないのではないだろ
 うか。地元でそんなひとびと つな わ わ つく だ かつどう おこな
 うか。地元でそんな人々の繋がりや和と輪を作り出せる活動を行っていきたい。
 こんご すてっぷ ねが もう あ
 どうぞ今後ともSTEPえどがわをよろしくお願い申し上げます。

ねんご しゅうねんきねんごう なん か て わらい
 さて、5年後の10周年記念号には何と書いているだろうか。(照れ笑)





STEPえどがわは、お陰さまで設立5周年を迎えることになりました。これもひとえに皆様のお力添えがあってこそと、職員一同心より感謝申し上げます。

設立5周年を記念し、日ごろお世話になっている方々、お付き合いいただいている方々より、ご寄稿を頂きましたのでご紹介いたします。



ぜんこくじりつせいかつせんたーきょうぎかい だいひょう なかにし しょうじ
 全国自立生活センター協議会 代表 中西 正司

じりつせいかつせんたーすてつが しゅうねん しゆく
 自立生活センターSTEPえどがわ5周年を祝して

じりつせいかつせんたーすてつが しゅうねん
 自立生活センターSTEPえどがわ5周年おめでとうございます。

これまでの5年間さまざまな喜びと共にご苦労もあったこととおもいます。お疲れ様でした。ちょうど設立されたのが2002年で、設立されてからすぐに支援費制度の引き下げ問題が起こり、その後毎年のように厚労省前のデモ、デモの毎日になり、そのすべてにSTEPえどがわのメンバーは出ていました。

自立生活センターの理念を忠実に守り、運動と事業を両輪として運営をされている姿は、JILの中での手本です。このままの運営をこれからも続けてください。

聴覚・視覚障害者へのサービスの必要性についていち早く気づき、職員研修を始めたのもSTEPえどがわです。

障害種別を越えて支援が必要なすべての人を対象にするのが自立生活センターの理念ですが、それについても率先してスタートし、自立生活センターのリーダー役を務めてくれています。

これからの運営についても、いくつもの山や谷があるでしょうが、常に前向きな姿勢で突き進んでいってください。

でーびーあいにほんかいぎじむきょくちょう おのうえ こうじ
D P I 日本会議事務局 長 尾上 浩二

せつりつ しゅうねん すてっぶ
「設立5周年と、これからのSTEPへ…!!」

じりつせいかつせんたーすてっぶ せつりつ しゅうねん
「自立生活センターSTEPえどがわ」設立5周年おめでとうございます。
つぎ すてっぶ む ひやく いの
次の、ステップに向けての飛躍をお祈りします。

あらし ねんかん すてっぶ こころづよ なかま
■ 嵐のような5年間をともにSTEPは心強い仲間

ねんかん にほんしゃかいぜんたい おお ゆ じき とく しょうがいしゃぶんや
この5年間は日本社会全体が大きく揺れた時期でしたが、特に、障害者分野
もじどおげきどう みま ねん しえんひせいど はじ ちいき
は文字通り激動に見舞われました。2003年に支援費制度が始まり、ようやく地域
とうじしゃ にーど もと ちいせいせいかつ ひろ かもうせい み
から当事者のニーズに基づいて地域生活を広げられる可能性が見えてきたとこ
こうせいろどうしょう ざいげんぶそく りゆう みなお すず げんざい しょうがいしゃじりつ
ろ、厚生労働省は「財源不足」を理由にその見直しを進め、現在の「障害者自立
しえんほう いた うご はじ
支援法」に到る動きが始まってきました。

ねんあき かいかく ぐらんどでざいん だ ねん がつ じりつ
2004年秋に「改革のグランドデザイン」が出され、2005年2月には「自立
しえんほう こっかい じょうてい ねん がつ にち よとう さんせいたすう どうほう
支援法」が国会に上程。そして、2005年10月31日に与党の賛成多数で同法が
しゅうぎいんほんかいぎ かけつ せいりつ ねん がつ どうほう しこう
衆議院本会議で可決・成立。2006年4月から同法の施行となっていますが、そ
ご てんかい しゅうち とお まいねなん とくべつたいさく おこな
の後の展開は、周知の通り、毎年何らかの「特別対策」が行われるといった有
さま かん わたし ぬ わたし き
り様です。この間、私たちは、「私たちのことを抜きに私たちのことを決め
るな!」「地域生活をあきらめない!」を合言葉に、国会請願デモをはじめ、集会、
ぎいん ちほうじちたい はたら など さまざま おこな
議員や地方自治体への働きかけ等、様々なことを行ってきました。

こうやってふりかえると、ほんとう たくさん できごと
こうやってふりかえると、本当に沢山の出来事がありました。が、
ぐらんどでざいん で じっさい ねん
「グランドデザイン」が出て、実際にはわずか3年ばかりのことです。あらた
うご はげ かん
めて、その動きの激しさを感じずにはおれません。

すてっぶ みな こうせいろどうしょう こっかいまえ しゅうかいなど あ
STEPの皆さんとは、厚生労働省や国会前での集会等でもしばしばお会
いし、また、こっかいぎいん じもとぎいん ろびーかつどう ねば つよ すず いただ
いし、また、国会議員や地元議員へのロビー活動も粘り強く進めて頂いており、
ほんとう こころづよ なかま
本当に心強い仲間です。

すてっぶ かつどうめん わたしじしん かつどう
STEPとのおつきあいは、こうした活動面だけでなく、私自身が、活動の
かんけい おおさか どうきょう ひ こ さい よしもと いまむら いえさが たいへん せわ
関係で大阪から東京に引っ越す際に良元さん、今村さんに家探しで大変お世話
になりました。そのおかげで、は えどがわくみん
になりました。そのおかげで、晴れて(?)江戸川区民となりました。(ただ、
ほとんど じたく ね かえ く ちいきかつどう やく た
ほとんど自宅には寝に帰るような暮らしぶり、地域活動のお役に立てておら

こころぐる
ず心 苦しいばかりですが…)

■当事者発の情報発信、バリアフリー等の取り組みに期待

自立生活センターの機能には、ピアカウンセリングや介護派遣等の直接サービスと、権利擁護の二分野があると言われます。(昨年9月のD P I 世界会議 韓国大会では、韓国のリーダーは、直接サービス・権利擁護・エンパワメントの『三肢構造』というような言い方をしていましたが)

「自立支援法」施行によって地域生活へのサービスへの影響、人材不足など、大変な状況にあります。それでも私たちの「どんなに重度の障害があっても地域で暮らしたい！」との想いは打ち消すことはできません。かつて、本当に何も無い中から、障害者が暮らすことで地域社会を変えてきたのが、自立生活運動の歩みです。その意味で、単なる「サービス提供機関」ではなく、同じ当事者としての共感を元にした相互支援、権利擁護の機能も併せ持つところに、自立生活センターの強みがあるのだと思います。

STEPでは、バリアフリーの活動にも力を入れられていることが、最近の自立生活センターの中ではユニークな面だと思えます。瑞江の街を歩くと、ところどころのコンビニや散髪屋に、STEP公認(?)のバリアフリーマークが目につきます。前に私が代表をしていた自立生活センターでも、「車いすでも使える美容院・散髪屋」情報を機関誌に掲載したところ好評を頂いたのを思い出します(私自身は、こうした面の情報には疎く、他のスタッフがまとめたのですが)。障害当事者が地域で暮らしていく中でこそ見えてくる情報があり、そうした情報発信に今後も期待します。

元々、大阪での地下鉄のエレベーター設置や「福祉のまちづくり条例」等の活動を中心に進めてきたこともあり、本当はこうした部分でも面白いことを一緒にできればと思っています。(この3年余り「自立支援法」漬けの生活だったため、欲求不満がたまっている?)

これから、いよいよ「自立支援法」の抜本見直しに向けて色々な動きが出てきそうです。そして、何よりも、国連で採択された「障害者権利条約」にそった、まっとうな法律・制度を求めていかなければなりません。地域生活やバリアフリー等が権利に基づいて実現できる社会にしていきたいものです。そのためにも、当事者発・地域発の取り組みが、これまで以上に重要になってく

おも
ると思われます。

これまでのあらなみの荒波の5年間を乗り切られたSTEPの皆さん、今後ともよろしくお願ひします。

いまい しろう
今井 志朗

ゆめ すてっば
夢あるステップを

じりつせいかつせんたーすてっばが でき しゅうねん むか き
自立生活センターSTEPえどがわが出来て、5周年を迎えると聞きました。まずはおめでとうございます。

ぼく はんずせたがや りじちよう かんけい どうしょ よしもとりじちよう
僕がHANDS世田谷の理事長をしていた関係もあって、当初から良元理事長とは
びあかうんせりんぐこうざ はんずせたがや じりつせいかつせんたー りねん うんえい
ピアカウンセリング講座や、HANDS世田谷に自立生活センターの理念や運営につ
いて僕について学びに来られたのが昨日のようでした。

よしもとりじちよう はじ あ いんしょう じぶん おな おも
良元理事長と初めて会った印象は、自分も同じように思われたかも
し
知れませんがどこのくみちようかとおも いまむらじむきよくちよう わがしら まるた
が極道の妻という感じでした。(笑)でも、さんにん しょうがいしゃしゆたい い み
かりつかんでおられ、何にも教えることもないように思えました。

よしもとりじちよう さんかげつかん けんしゅう こ とき ぼく いちばんつた
良元理事長が三ヶ月間ぐらい研修に来られた時に、僕が一番伝えたことは
ちいき しょうがいしゃ かんけい つく
地域の障害者とどう関係を作るかでした。

のち くりすますかい まね い み だんたい だいじょうぶ
後に、クリスマス会に招かれて行きました。それを見てこの団体は大丈夫だと
かくしん こんご しょうしん わす ちいき たいせつ
確信しました。今後初心を忘れることなく、地域とのつながりを大切にしてく
ださい。

はんずせたがやじだい ぼく びあかうんせりんぐせみならーりーだーとしてよ
く呼ばれて行きました。3年前からねんまえ やまなし す
りーだーとして呼んでくださっています。僕にとってはとても有り難いこと
す。びあかうんせりんぐ いみ りかい しょうがいしゃ えんぱわーめんと
が活動する活動を忘れることなくつづけることが重要であるということは言うまでも
ありません。きよねん がつ よ
ありません。去年の8月にも呼んでいただいて、それがきっかけで、やまなしけん
もようやくピアカウンセリングの大切さを認識してもらえそうです。僕にとつ
ては、じりつせいかつせんたーすてっばが はんずせたがやどうよう よ きょうりよくしゃ
ては、自立生活センターSTEPえどがわはHANDS世田谷同様、良き協力者
です。

しゅうねん むか いま しょうがいしゃ せいど おお か き そちせいど
5周年を迎えた今、障害者の制度が大きく変わって来ています。措置制度が

しょうがいしゃじりつしえんほう へんかくじ じりつせいかつせんたー めん
ら 障害者自立支援法と変革時です。自立生活センターとしていろいろな面で、
かどき むか おも しょうがいしゃ けんりようご じんけん まも いま
過度期を迎えていると思います。障害者の権利擁護や人権を守ることに今ま
いじょう ちから い ほ おも
で以上に力を入れて欲しいと思います。

ねん た ねん た ねん た かん わ
やっと5年経ったという感じなのか、もう5年経ったという感じなのか分
りませんが、10年、20年を目指してください。最後にお祝いの言葉を一言書
きます。

ぜつぼう きぼう も みらい ごー
「絶望から希望が持てる未来へGO！」

えぬびーおーじりつせいかつせんたー じむきよくちょう みかた のぶこ
NPO自立生活センターくれぱす 事務局 長 見形 信子

しゅく せつりつ しゅうねん
祝☆設立5周年！おめでとう！

としあ まるた よしもと しゅうねんきねんぶんしゅう つく き びっくり
年明けに丸田さんと良元さんから5周年記念文集を作ると聞いてビックリし
ました！

はや すてっぶ せつりつ ねんけいか
早いもので『STEPえどがわ』が設立してもう5年経過したということです
もんね。くれぱすとほぼ同期なんですよね。

『STEPえどがわ』とは、くれぱすのイベントの参加者として良元さんが来て
くれたり、その後、私がピア・カウンセリングセミナー、集中講座のリーダー、
サブリーダーとして関わることや、STEPの学習会などに参加したりで、
センターとの距離は遠いものの親交を深めていくことになりました。

『STEPえどがわ』は、当事者性を打ち出し、権利擁護の視点を持ちつつ、
ユーモアを持ってます(たしか『STEP訓』なるものやダンサナクスンジャー
とか?)

センターとして、勢いがあるな—とっていました。

じむきよくちょう いまむら はじ すてっぶ みな じりつしえんほう しえんひせいど
事務局 長の今村さんを始め、STEPの皆さんが自立支援法や支援費制度に
くわ しょうがいしゃうんどう リーダー とく すがた たの おも
詳しく、障害者運動のリーダーとして取り組んでいる姿は頼もしく思います。

もちろん、その運動部分(権利擁護)での活躍は代表を筆頭に成果を挙げている
と聞いています。パワフルという言葉が似合いますね。

これから私達を含めて『STEPえどがわ』も新しい自立生活センターの形
をつく かに
を作りあげる過程にあるのかな・・・とんでいます。

とも しゃかい か
共に社会を変えていきましょう。

こんご たが まな ぶぶん さんこう せいちょう おも
今後もお互いに学べる部分を参考に成長していけたらと思っています。

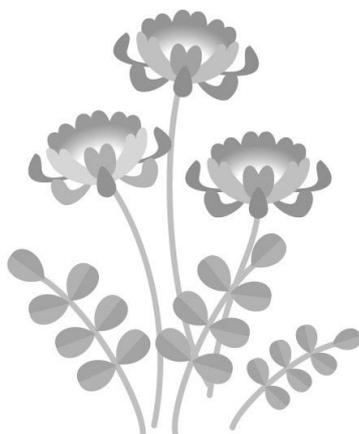
みな
 皆さんのさらなる発展を期待しています。これからもどうぞよろしく！！
 しゅうねん
 5周年おめでとうございます！！

なんびよう かい あげんすと やまもと はじめ
 難病の会 AGAINST 山本 創

すてっが みな そくりつ しゅうねん
 STEPえどがわの皆さん、創立5周年おめでとうございます。
 おく かいほう たの とく ときおり
 送られてくる会報をいつも楽しみにしています。特に、時折さしこまれている
 まんが いらすと わら ころ どぎも め
 マンガのイラスト！？に笑い転げたり、度肝を抜かれたりしております。
 すてっが からー たいせつ どうきょう ひがし かせ
 いつまでもSTEPえどがわカラーを大切に、これからも東京の東から風
 おく
 を送ってください。
 なんびよう ないぶしょうがい しょうがいしゃ ちいき じりつせいかつ じゅうじつ
 難病や内部障害など、いろいろな障害者がともに地域で自立生活を充実
 おく
 して送れるように、これからもよろしくお願ひします。

はちおうじちようかくしかくしょうがいしゃ さぽーとせんたー しょくいんいちどう
 八王子聴覚視覚障害者サポートセンター 職員一同

しゅうねん
 5周年おめでとうございます。
 ねん まえ ちようかくしょうがい しかくしょうがい まな きかい つく
 2年ほど前から、聴覚障害・視覚障害について学ぶ機会を作っていただき、
 かんしゃ いっしょ かつどう ねが
 感謝しています。これからも一緒に活動していけますよう、よろしくお願ひ
 たします。そして、今後ますますのご発展をお祈りいたしております。



じりつせいかつせんたー はんずせたがや りじちよう よこやま あきひさ
自立生活センターHANDS世田谷 理事長 横山 晃久

ごしゅうねん
五周年にあたって

ごしゅうねん しょうがいしゃふくしせいさく ごねん あいだ ずいぶんげきへん
五周年おめでとうございます。障害者福祉政策は、この五年の間に随分激変し
たと思います。措置制度から支援費制度になり、現在では自立支援法に大きく
さまが ちいき い しょうがいしゃ じゅうどしやうがいしゃ
様変わりをしています。地域に生きる障害者、とりわけ重度障害者にとつて
は、文字通り死活問題になっています。そこで、自立生活センターの役割も仕事
ないよう へんか
内容も変化してきています。

いま じりつせいかつせんたー うんどうめん か そな じぎやうだんたい ふた
今までの自立生活センターは、運動面を兼ね備えた事業団体という二つの
そくめん も どうじしやだんたい きんねん せいど か じぎやうしょ へる ぱー はけん
側面を持った当事者団体でした。近年は制度も変わり、事業所(ヘルパー派遣
じぎやうしょ)の規模も大きくなり、運動体には助成金も補助金も出なくなりました。
でも、私たちが目指していたものは行政の下請け機関ではなく、誰もが安心して
ちいき い しゃかい つく あ もくてき
て地域で生きられる社会を作り上げていくのが目的でした。

わたし じりつせいかつせんたー な ちいき じゅうどしやうがいしゃ あんしん かいじよはけん
私は、自立生活センターが無くても地域で重度障害者が安心して(介助派遣も
ふく く しゃかい めざ じりつせいかつせんたー こわ もくてき
含めて)暮らしていける社会を目指して、自立生活センターを壊すことを目的と
して自立生活センターを立ち上げました。自立生活センターの課題は増えてき
ていとおもいます。まず、「当事者主体」の中身を各障害者別にあてはめて、知的
しょうがいしゃ どうじしやしゆたい なに せいしんしょうがいしゃ どうじしやしゆたい なに じゅうど
障害者の当事者主体とは何か、精神障害者の当事者主体とは何か、そして重度
しょうがいしゃ どうじしやしゆたい なに あら ちへい た なかみ ぎろん
障害者の当事者主体とは何か、といった新たな地平に立った中身の議論をして
いかななくてはならないとおもいます。そして第二の課題は、若手当事者の育成で
す。私ひじょう ききかん も じゅうねん どうじしやうんどう き
が非常に危機感を持っているのは、あと十年もしたら当事者運動が消え
ていくとおもっています。是非この点でも東京23区の中で連携して行きたいと強
くおもっています。東京都の自立生活センターは、区部より市部の方が多いで
す。もっともくぶ じりつせいかつせんたー た あ ひつよう
と区部でも自立生活センターが立ち上がっていく必要があると
かんが ume まえ しごと ぼうさつ みらい じぶん て
考えています。目の前の仕事に忙殺されるのではなく、未来を自分たちの手で
き ひら ひつよう いま おも
切り拓く必要が今だからこそやらなくてはならないことだとおもいます。これか
らおな くぶ どうし ちから あ な あ きんちやうかんけい も
らも同じ区部同士として力を合わせて、馴れ合いではなく、緊張関係を持っ
たよい ぱーとなー でがんばっていきましょう。

えぬびーおーほうじん ぼーだれす りじちょう みやはら てるお
NPO法人 ボーダレス 理事長 宮原 映夫

す てっ ぶ そくりつ しゅうねん
STEPえどがわ創立5周年、おめでとうございます。

わたし とうじ せつりつじゆんび たずさ いただ よしもと まるた いちかわ
私も当時、設立準備に携わらせて頂きましたが、良元さん、丸田さん、市川さん、
いまむら せいりよくてき うご おも だ
今村さんが精力的に動かされていたのを思い出します。

しゅたいせい も じゅうどしやうがいしゃ だんたい えどがわく
主体性を持った重度障害者の団体がなかった江戸川区にとっては、とても
おお へんかく ちが
大きな変革をもたらしたことに違いありません。

しえんひせいど じだい はじ きだんたい えどがわく い すす てっ ぶ
支援費制度の時代に始まった貴団体も、いまや江戸川区と言えば「STEPえ
どがわ」と言われるほどの団体になりました。

こんご しゅうねん しゅうねん いき なが だんたい はってん ねが
今後も10周年、20周年と息の長い団体として、ますますの発展を願って
おります。

ほんとう
本当におめでとうございます！

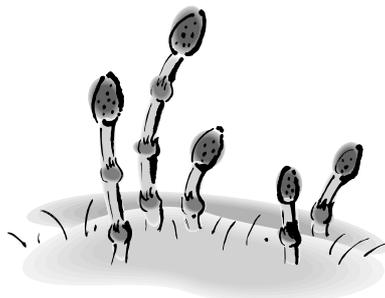
じりつせいかつ むちゅうせんたー りじちょう ひらした こうぞう
自立生活 夢中センター 理事長 平下 耕三

す てっ ぶ しゅうねん
STEPえどがわ5周年おめでとうございます。

とうきやう い おり みずええきしゅうへんさんさく たの
いつも東京へ行った折には瑞江駅周辺散策を楽しませてもらっています…ま
ずはDPIの尾上さん宅めぐりから始まり(笑)続いてうまいもんめぐり…濃
こ
い味通の屋台ラーメン～車椅子の高さに合わせた寿司屋などなど…その街らし
あじつう やたいらーめん くるまいす たか あ すしや
さがある街並み…私 かなり気にしております！
わたし き

これからそんな街の風景を変え、地域を変え、国を共に変えていきましょう。

しーあいえる ぱ わーさくれつ
CILパワー炸裂！！



とうきょうとりつえどがわようごがっこう こうちよう くにあだ たかゆき
東京都立江戸川養護学校 校長 國枝 孝行

～これからも障害のある当事者の視点を宝にした人への
支援と地域社会づくりを～

じりつせいかつせんたーすてっぶ せつりつ しゅうねん こころ よろこ もう あ
『自立生活センターSTEPえどがわ』の設立5周年を心よりお喜び申し上げます。

すてっぶ へいせい ねん がつ ほんこうせいと たいしゅう
『STEPえどがわ』とのつながりは、平成14年の7月に本校生徒を対象と
した「進路講話会」で現在理事長をされている良元様を講師としてお招きした時
から始まりました。その後「センター」の具体的なプランについてのお話も多
うかが
々伺いました。

へいせい ねん がつ にち ど すてっぶ じむしょびら さんか
平成15年4月19日（土）の『STEPえどがわ』事務所開きにも参加さ
せていただき、その時の壁に書かれた「All for one, One
for all!」というセンターのポリシーと開いたドアの前を通りがかる
ひと きょうみしんしん ようす つよ いんしゅう のこ えどがわくない みんかん
人の興味津々な様子が強く印象に残っています。江戸川区内に民間の
バリアフリーマンションが建設され、瑞江駅付近を中心とした地域に住む障
害のある方が増え、そのサポート組織・体制の充実が望まれる中でのセンター
た あ
立ち上げでした。

ご すてっぶ すたっふ かた しょうがい ひと しゃかい なか
その後、『STEPえどがわ』スタッフの方と障害のある人が社会の中で
じりつてき せいかつ うえ ひつよう しえん はな しんろ じゅぎょう しょうがい
自立的な生活をする上で必要な支援について話しあい、「進路」の授業に障害
のある当事者の方^{かた}に外部講師として^{がいぶこうし}かかわっていただくことができました。ま
た生徒が在学中から地域の機関や人と直接話してつながりを持ち、相談支援
せいと ざいがくちゅう ちいき きかん ひと ちよくせつはな も そうだんしえん
を受けられることを目指し、「進路・地域生活相談」も始めました。この相談で
う めざ しんろ ちいきせいかつそうだん はじ そうだん
は、生徒から外出や公共交通機関の利用で直面した体験、ヘルパーを活用し
せいと がいしゅつ こうきょうこうつうきかん りよう ちよくめん たいけん へるぱー かつよう
ての介助支援の課題のクリア等の話が具体的に^{かた}出され、いただいた助言や後押
し^{こんご}が今後のヒントやポジティブな気持ちにつながることが多々ありました。
ほんこう せいと そつぎょうせい すてっぶ じりつせいかつぶろぐらむ
本校の生徒や卒業生が、『STEPえどがわ』の「自立生活プログラム」や
び あかうんせりんぐ など かつどう さんか たいけん はっけん
「ピアカウンセリング」等の活動に参加させていただき、そこでの体験や発見を
つた とき かんげき おも だ ほんこう じどう せいと もで
伝えてくれた時の感激もよく思い出します。本校の児童・生徒にとって、①モデ
ルとして^{しょうがい}障害のある当事者の^{とうじしや}生き方を^{いかた}捉えること、②地域^{ちいき}の中で^{なか}相談^{そうだん}できる人
を^{ひろ}広げることは^{しょうらい}将来の自立^{じりつてきせいかつ}的生活の^{じゅうよう}重要な^きキーになると^{かんが}考えています。人は

だれでもその人らしさを活かした社会への発信ができ、それは存在感や生きがいの発見にもつながります。障害のある当事者の視点だからこそ実感できる社会へのアプローチを通して暮らしやすい環境づくりに結びつける力が豊かにあると思います。そして自分も他の人も肯定的に受けとめていける人が地域の中で多く育つことを強く願っています。

障害のある当事者の方が推進している『STEPえどがわ』がこの意義ある5周年を契機とし、誰もが当たり前に暮らせる地域社会づくりのセンター的役割を担いながら発展いたしますことを祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。

かつ や みつのぶ
勝矢 光信

び、ば、じりつせいかつ
ビバ自立生活！

自立は、神が人間に与えた、固有の権利である。だれもが自立の権利を与えられて生まれてくる。しかし、環境によって妨げられ、自立できない場合がある。例えば、年齢、経済、環境、体力などである。これらの障害は、人間の部分的なものである。部分（障害物）が全体（人生）を否定してはいけない。部分（障害物）はあくまでも部分であって、全体を塗りつくすことはできない。色とりどりの全体を、黒という部分的カラーで塗りつくして良いのか？これが自立の大原則である。自立の究極は、各自が自分らしい人生を選び取ることに尽きる。

自分の人生を自分で選ぶことが、国家を作り、世界を形成していく力を生む。原点は、個人であって、社会と言う複雑な関係の中で、個人の自立を互いに認め合うことが、地域・国家・世界を作る。

アメリカで「インディペンデント（独立）」をあれほど重要視し、その原点から国家が発展したように、障害者の自立運動も、その流れから生まれ、世界中に広がった。障害者が自立するのは、全ての面で「やらなくてはならない活動」である。なぜならば、人権の確立だからである。

一度、この原点を認めると、人の動きは活発になる。社会が活き活きとしてくる。病院・施設に預けておけば良いといった「責任放棄」は許されなくなる。

しょうがいしゃ しゃかい どうごう しゃかい ぎむ しょうがいしゃ じしん しゃ
障害者を社会に統合することが、社会の義務になる。そして、障害者自身も社会の一翼を担うようになる。

すてっぶ かつどう つづ ねん おめでとうございます
STEPが、そんな活動を続けて5年になる。オメデトウゴザイマス。おかげで、瑞江周辺は、障害者のメッカになりつつある。住んでみてください。歩いてみてください。ちょっと生き易い、ちょっと温かい町と感じませんか？

しゅうねん おめでとうございます。すてっぶ かげ えどがわく しょうがいしゃ ちいき
5周年、おめでとうございます。STEPのお陰で、江戸川区の障害者が地域生活可能になりました。

ここで、あらためて、「自立」を考えたいと思います。障害者の自立は、金がいくらあっても不可能で、環境改善、良い技術とハートを持ったスタッフの増加など、総合的な「助け」によって達成できると思います。そして、障害者の自立は、地域全体の豊かさをもたらします。障害者のための「自立運動」ではなく、「地域」のための「自立運動」なのです。地域力を高めるのが、障害者の役割りなのです。地域のエネルギーをもらい、生きる力を養っていくことが、地域や国家の活力になるのです。地域力と自立は、密接な関係を保っています。自立方法を研究しましょう。自立の道を探りましょう。昔の「なんでも自分でやれるようにする」という古い考えは、1973年(昭和48年)を境に180度転換し、「必要な助けを受けて自立する」「障害を見つめないで、社会との関係性を重視し、存在の意味を強調する」方向に進みました。

「助け」を大きく分けると4つになります。

こうじょ こうじょ きょうじょ じじょ ぶんるい
公助、互助、共助、自助に分類できます。

こうじょ ぎょうせい うった せいど りよう ねんきん う せいど し
公助——行政に訴え、制度を利用し、年金などを受けているか？制度を知っているか？

こうじょ ぼらんていあ ちいき にい ねえ こんびに
互助——ボランティアや地域のおばさんおじさん、兄さん姉さん、コンビニやラーメン屋の店員、スーパーの店員、町会の人、警官とコミュニケーションを普段から取る努力をしているか？地域に参加しているか？

きょうじょ かぞく くらす なかま しょくば なかま かいわ なかま いったいかん かくにん
共助——家族、クラスの仲間、職場の仲間と会話をし、仲間の一体感を確認

しあって、助け合っているか？仲間がいるか？仲間の集まる場があるか？

じじょ じぶん たにん たよ すこ どりょく
自助——自分でできることを他人に頼らないでやっているか、少しでも努力しているか？できないことを、自分の言葉でヘルパーさんに伝えられている

か？自分の存在意義を否定していないか？

いじょう じ こさいてん てんまんてんちゅう てん こ のぞ
以上、自己採点をしてみてください。400点満点中、200点を越えることが、望
ましい。かく てん こ よ
各50点を越えれば良いです。

また、自分の足りない部分をこれからどうしたらほじゅう かんが
補充していけるか、考えてく
ださい。

じりつ じじょ しゃかい こうちく よ よ なか つく ひつよう ちいき い
自立と自助は社会を構築し、良い世の中を造るために必要です。地域に生きる
よろこ じぶん じんせい じぶん き よろこ し ひと じょうき かくぶん や
喜び、自分の人生を自分で決める 喜びを知っている人は、上記の各分野で、
自分にはどこが足りないか、どんな点に今後努力したら自立力が増すかが、

わかってくるとおもいます。

かんねんてきじりつ えん おお しゅうにゆう え しゅみ おお ひとり
観念的自立ではなく、1円でも多く収入を得、1つでも趣味を多くし、一人で
もお ゆうじん え ぐたいてき もくひょう じりつうんどう
も多く友人を得るといった、具体的な目標が「自立運動」にはふさわしいです。

ゆうげんがいしゃ ぱむっく だいひょうとりしまりやく かわばた よしとも
有限会社パムック 代表取締役 川畑 善智

ちいき とりで すてっが はってん いの 地域の砦「STEPえどがわ」さんの発展を祈る

すてっが さま せつりつ しゅうねんたいへん かつ
STEPえどがわ様、設立5周年大変おめでとうございます。これまでのご活
やく ひとえ すてっが りじちよう よしもとさま じむきょくちよう いまむらさま
躍も、一重にSTEPえどがわの理事長である良元様、事務局長の今村様や
まるたさま こころざし しょうがいとうじしゃ どりよく たまもの おも わたし
丸田様などの志 あふれる障害当事者の努力の賜物だと思ひます。私が
すてっが みな ころりゆう かん
STEPえどがわの皆さんと交流をしていて感じることは、あくまでも障害
とうじしゃ してん こうどう てん よしもとり じちよう
当事者の視点で行動されているということです。この点が良元理事長をはじめ
す た つ ふ みなさま きょうつう げんりげんそく かん
スタッフの皆様が共通してもたれている原理原則のようなものなのかなと感じ
ております。

これまで東京東部地域ではなかなかこのような発想をする団体がなかったと思
うのですが、今の時代、一番大事なのは当事者の声をどれだけ集めて大きなま
とまりを持った声にしていけるのかだと思ひますので、STEPえどがわの存
ざい かし たか
在価値はさらに高まっていくのではないのでしょうか。

わたし ふくしやうぐ つう しょうがいしゃ ちいきせいかつ さぼーと もくひょう ふくし
私は「福祉用具を通じて障害者の地域生活をサポートする」ことを目標に福祉
やうぐ はんばいしゅうり れんたる かいしゃ けいえい すてっが
用具を販売修理レンタルする会社を経営しておりますが、STEPえどがわの
みなさま しどう ちいき かつどう
皆様のご指導がなくては、ここまで地域で活動することができませんでした。
これからすてっが さま しどう じゅうど しょうがい も
これからもSTEPえどがわ様のご指導のもと、どんなに重度の障害を持って

いても自己決定して生きることのできる社会を実現するため、皆様のお役に立つよう努力していきたく思います。

この江戸川の地で、障害者があたりまえに生活することができるために、STEPえどがわ様のますますのご活躍を期待しております。

最後に、5周年おめでとう、そして次の5周年へ飛躍してください。

しゃかいふくしほうじん つち かい いえ しょちょう おおぬま ゆきお
社会福祉法人つばき土の会もぐらの家 所長 大沼 幸夫

「おてやわらかに」

「うっ、熱い?! 熱いぞ!」こんなにも熱く、かくあらんと語りかける人物に、久し振りに会った..... というのが、良元代表にお会いしての第一印象。

一方、「クール?!」 対照的にその静かな物腰の内に、キラリ 鋭く 現代福祉を刺すかのような今村さん。

それから、我が家のクリスマス会。ふくよかな笑みに美声を披露し、人気をさらった丸田さん。

恐ろしく対照的であったりしながらも、それぞれに立ち、それぞれを立てて協働する、個性豊かで力のある、魅力的な障害者の方々が瑞江に集い、来たんだなあ、と思いました。

それからもう5年が経ちますか、早いものですね。

もぐらの家とSTEPさんとの接点は、STEPさん主催の自立プログラムに利用者が参加したり、体験ルーム「ヤッテミーナ」の利用、STEP呼びかけの各種集会・研修会等の参加、双方主催の行事・イベントの参加、そして最近 は、福祉サービス提供事業体としてヘルパー派遣事業をしているSTEPさんと我が家の通所利用者が契約しヘルパーを利用させてもらっていたり、さらにうちの利用者一人が「ヘルパー」として雇用して頂くなど、大変つながりが深く、お世話になっています。

STEPさんともぐらさんは、行政に対する郊外姿勢等に若干の違いがあ

り、先鋭的な皆さんから見ると私共は及び腰で情けなく見えるかも知れません。でも、それ以上にたくさんの共通する思いを持っていると思っています。

皆さんは、次代を担う優れたアンテナと推進力をお持ちだ。今後、瑞江に現れた新星が、押しも押されもせぬ恒星となり、「かくあるべき日本の福祉」の先駆けとして活躍される事を期待しています。

もぐらさんはとてもそこまでの力はないけれど、地域から国家レベルに至るまで、今より少しでも福祉が良い方向へ向かうよう、共に歩む気持ちを持っています。そういうわけで、できる範囲で無理なく、末永くお付き合いをさせて下さい。どうぞおてやわらかに。

もり たいいちろう
森 泰一郎

すてっが STEPえどがわさんへ

STEPえどがわとのつきあいは二年近くになるだろうか。当時自立支援法完全施行を前に、区との話し合いが紛糾し、「新松橋亭同人(筆者が所属している精神病者の患者会)」から、「江戸川区福祉を考える会」にでてみないかといわれてSTEPえどがわさんを訪れたのであった。

事業所というところは、バリアフリーである以外は普通のオフィスとそんなに変わらないという意識はあったので、別段驚きはなかったが規模は大きいな、と感じた。

それで私はSTEPえどがわさんの人々と一緒に、自立支援法関係の請願行動、議会傍聴、区庁舎前ピラ撒き等々をおこなっていき、徐々に親しくなっていた。その中で転機が訪れた。自立支援法本格施行前のDPI日本会議事務局長の尾上氏を招いての講演会であった。

尾上氏の話聞いて新松橋亭同人の仲間が「精神病者にはリアリティのない話だと」、問いかけたのに対して尾上氏は「あなたも介護を獲ってみてはいかがですか」と逆に提起したのだった。

なるほど俺たちもとれるはずだ、と考えた私をはじめ何人かの精神病者は、

介護を区に申請していく（江東区と江戸川区）。その結果、江東区の仲間に月10時間、私に月15時間支給されたのだがこれでは足りないから増加を求めて闘いをおこなった。これについては、新松橋亭同人発行「病者、介護を獲る」を参照して欲しい。（宣伝が入って恐縮だが、入手されたい方は、東京都江東区亀戸4-14-5-104 新松橋亭同人 電話/ファックス 03-3638-6089 電子メールの場合は moritai@mh.point.ne.jp まで問い合わせて下さい）

運動をやった結果、江東区の仲間も月62時間というかなりの支給量を勝ち取ることが出来、そのときの合意文書を武器に、私も江戸川区から、月42時間半の支給量を勝ち取ることが出来た。

さて、支給量は増えたがこれまでの事業所は規模が小さく私の増加分まで派遣できないという。そこでまたまたSTEPえどがわさんに、週2回の派遣をお願いするということでさらに縁が深まった。支給量の増加を勝ち取ることは何とか出来ても、精神病者の介護について理解のある事業所がなければ病者は消耗し意味がない。これからもSTEPえどがわさんには頑張ってもらいたい。



りようしゃ
利用者さんからの
よがこーなー
寄せ書きコーナー

すてつぷ うえ かみさま あわ じひ かご しゆくふく
* STEPの上に神様の憐れみとご慈悲とご加護と祝福がありますように。

ひなが ゆきこ
日永由紀子

せつりつ しゅうねん
* 設立5周年おめでとうございます。いつもお世話になってます。

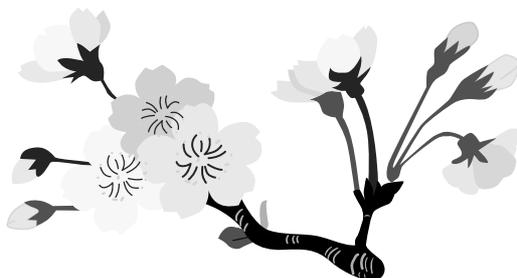
わたし すてつぷ たの りじちよう すたっふ ねん ねん
私がSTEPえどがわさんに頼むようになってから、たぶん、2年？か、3年？
たちます。STEPさんの理事長はじめスタッフさんによくしてもらいありがと
うございます。体験ルームでは、いい体験となっています。
これからのSTEPへ 今まで通りでいいんちゃう？

みつきー
ミッキーっこ

しゅうねん
* 5周年おめでとうございます。

ぼく としん きろはな とない おがさわら ちちじま す しょうがいしゃ
僕は都心から1000km離れている都内の小笠原の父島に住んでいます。障害者
かいごじぎょうしょ そんない なか すてつぷ どうろくへる ぼーほうしき
の介護事業所が村内にない中で、STEPえどがわに登録ヘルパー方式で
うけい ない なか りとう じりつせいかつ つな ふゆ
受け入れていただいて、何もない中で離島での自立生活が繋がりました。冬で
も 20度くらいの暖かい小笠原なので障害が増えない為にも皆さんお越しく
ださい(^o^)/ でもかたみち じかん ふえりー とこず
でも片道25時間のフェリーなので床擦れなどできるかもしれ
ませんが(笑) わらい くるまいす にち どうないいっしゅう あんない まか
車椅子でも1日で島内一周できますよ。ご案内はお任せくだ
さい。

おおくぼ けんいち
大久保 健一



へるばー
 ヘルパーさんからの
 よがこーなー
 寄せ書きコーナー

ごしゅうねん
 * 五周年おめでとうございます。

これから、自立していく人達のためにも頑張ってください。

ほそがい えいこ
 細貝 栄子

まいしゅうまつ すうじかん わたし へるばー じかん わたし せいかつ
 * 毎週末の数時間。それが私のヘルパーとしての時間。それは私の生活の
 いちぶ かぞく す じかん おな たいせつ じかん きつ ねん
 一部となり、家族と過ごす時間と同じくらい大切な時間。気が付けばもう4年
 あま しごと とお きちよう けいけん つ こと じゅうじつ
 余り。仕事を通してたくさんの貴重な経験を積む事ができとても充実してい
 た。これからもSTEPと共に成長していきたいと思う。

しゆくわ たかこ
 宿輪 孝子

たび しゅうねん むか こと みなさま ますます げん き ひび
 * この度は、5周年をお迎えになられた事、そして皆様が益々お元気で、日々
 かつやく こと ところ おしゆくじもう あ
 活躍されております事を心より御祝辞申し上げます。
 こんしゅん へるばー すてっぶ いちいん あた ぎ
 今春からヘルパーとして、STEPえどがわの一員になりました。暖かい気
 も わす おも
 持ちを忘れずに、これからもかかわっていきたいと思います。

(o^▽^o) Y S

ごしゅうねん
 * 五周年おめでとうございます。

りようしゃ たの とき す つら とき へるばー
 利用者さんと楽しい時を過ごせたり、もちろん辛い時もあり、ヘルパーだか
 らこそできる経験がとても勉強になります。今後もSTEPでたくさんの人
 が かか であ ば
 が関わり、出会える場であってほしいです。

とくめい
 匿名

すてっぶ せつりつごしゅうねん
 * STEPえどがわ設立五周年おめでとうございます。

ごねんかん すてっぶ ちいき しゃかい こうせき はか し
 この五年間に、STEPが地域に、社会になしてきた功績は計り知れないもの
 であると思われまます。

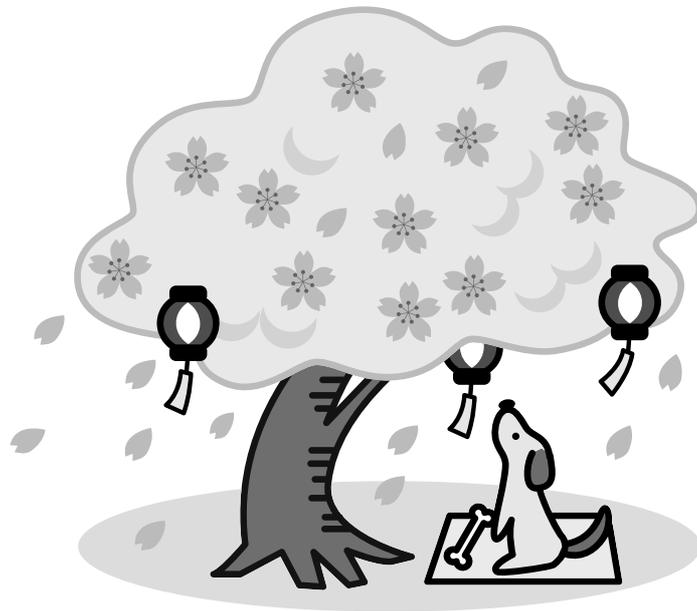
これから自立生活の先駆者として活動されますこと、微力ながら応援させ
 ていただきたいと思います。

しかの てんいちろう
 鹿野 天一郎

すてっぷ ごしゅうねん
*STEPえどがわ五周年おめでとうございます。

わたし りようしゃ い かた そんけい きも も
私は、利用者さんの生き方に尊敬の気持ちを持っています。ヘルパーの仕事をする
ことので大切なことをいろいろ べんきょう させてもらっています。これからも
りようしゃ ふつう あ まえ せいかつ
利用者さんがごく普通の当たり前の生活ができるように、助け合う思いやりを
わす しないように 仕事をしたいと思っています。これからも よろしく お願い
いたします。

とくめい
匿名



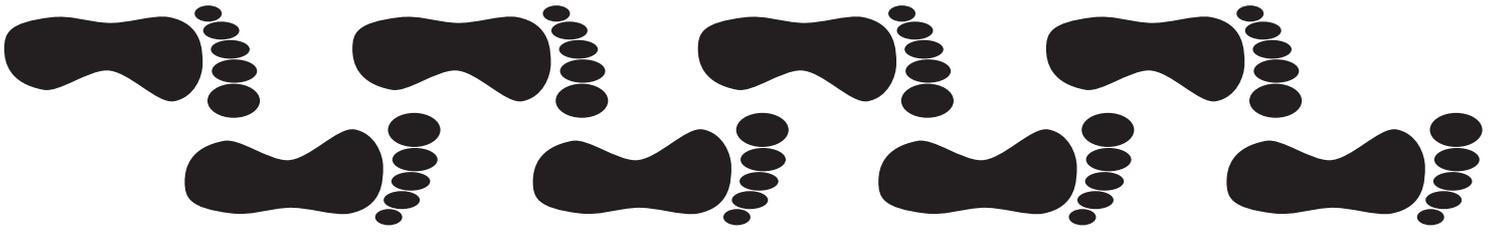
お知らせ

ご存知の方もいらっしゃるかとは思いますが、この度STEPえどがわのホームページをリニューアルいたしました。常に更新を心がけ、より有益な情報を発信し、そして何より楽しいページ作りを励んでいきたいと思っております。お立ち寄りいただければ幸いです。

また、すでにお気に入りやブックマークに 등록されている方で旧ホームページへ飛んでしまう方は、お手数ですが再度登録しなおして頂くようお願い申し上げます。



<http://www.step-edogawa.com/>



12月14日	12月22日	平成19年	1月18日	1月27日	2月15日	3月4日	3月19日	3月31日	4月4日	4月27日	5月12日	5月14日	5月19日	5月26日	5月26日	6月10日	7月6日	7月15日	7月16日
が	が	へいせい	が	が	が	が	が	が	が	が	が	が	が	が	が	が	が	が	が
に	に	ねん	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に
日	日		日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
・	・		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
江戸川養護学校進路授業	STEPクリスマス会 開催		江戸川養護学校進路授業	第一回話し合いプログラム 開催	江戸川養護学校進路授業	集中ピア・カウンセリング講座 開催	アジア障害者・子ども写真展 開催	お花見の会 開催	江戸川・江東区議選候補者へのアンケート実施(江戸副会)	江戸川区相談員会議	調理ILP・KOOKI GOODくらぶ	埼玉の大学講師依頼	JILセミナー&総会	フィールドトリップ・都電荒川線に乗って出かけよう	JICA研修生ホームステイ 受入	DPI総会	七夕パーティー 開催	ボランティアアフエステイバル 参加	ピア・カウンセリングセミナー 開催



入場無料！
アジア障害者
子ども達写真展
19日(月)～22日(木)
9時～21時
(22日は17:00まで)
21日(祝)芝浦アピアのホールで開催です！



自立生活センター
サンプラザ中野くんたー!!

STEPえどがわ



Sunplaza
070809

みゆーじしゃん きんぷらざなかの
ミュージシャン サンプラザ中野くん



おれ しょうにまひ きんぷらざなかの
俺は小児麻痺だった。サンプラザ中野
くんたー!

さい ちよくぜん はつびょう みぎはんしん まった
3歳になる直前に発病した。右半身が全
うごかなかった。いしや こんや とうげ
く動かなかった。医者は「今夜が峠です」
かぞく つ かげさま いま けん
と家族に告げたそうさ。お陰様で今は健
じょう みぎはんしん うご にぶ
常である。右半身の動きはやや鈍いのだ
が。そんなの關係なく暮らして行けている。
おれ せんじつ じりつせいかつせんたーすてつぷが
そんな俺は、先日「自立生活センターSTEP

えどがわ」という ところ じゃま
ところへお邪魔した。東京都江戸川区にある。障
碍の自立生活
のあらゆる問題に取り組んでいるNPO法人である。高校の同級生がそこで仕
もんたい とく えぬびーおーほうじん こうこう どうきゆうせい
事をはじめた。彼女に「一度見学にこない?」と誘っていたのである。行く
ごとはじ かのじょ いちどけんがく こ さそ
前は、国あるいは都からのお金で運営されている組織なのだろうと思っていた。
まえ くに と かね うんえい そしき おも
つまり官主導の。しかし、違った。自立しているのだそうさ。しかも組織の長
かんしゅどう ちが じりつ そしき ちよう
をはじめ幹部の方々は皆さん 重度 障 碍者であった。まさに自立生活センター
かんぶ かがた みな じゅうどしょうがいしや じりつせいかつせんたー
なのである。

しゅうにゆう へるぼーはけん え
収入のほとんどはヘルパー派遣から得
ているのだそうさ。おな そしき ぜんこく
ているのだそうさ。同じような組織は全国
にあることのこと。それはやはりそれぞれ
に頑張っているようで、どれもお役所の下
がんぼ やくしよ もと
作られた組織ではないのだそうさ。しかし
つく そしき
稼ぐのは本当に難しいことだ。ヘル
かせほんとう むずか へる
パーを育ててもなかなかなが い
ばー そだ なが い
うだ。大変な仕事だから。
たいへん しごと





そもそも「自立生活センターSTEPえどがわ」が江戸川区に作ったのは、障害者が多い地域だからなのだそうだ。何故障害者が多いのかというと、障害者向けのマンションがあるときできた。それから障害者が街に増えてきたのだそうだ。その相乗効果でその手の部屋が増えていき、障

害者も増えてきた。街の人たちも障害者に慣れてきていると思えるのだそうだ。

だから住みやすいとのことである。

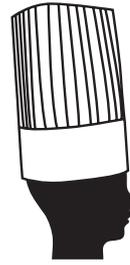
この「好循環」は面白い。中華街やコリアンタウンはある。ブラジルタウンもあるだろう。もちろん日本に。そして江戸川区に障害者タウンができつつある。その人達それぞれが住みやすい街作り。それこそが昔から街の発展を促してきたと思う。シリコンバレーだってビットタウンだって。あと江戸城下の町だって。

「自立生活センターSTEPえどがわ」に注目している。同情ではなく、彼らの自立生活へのチャレンジを観ていきたい。関わることがあったら関わっていきたい。障害者のQOLとは何なのか？を身をもって教えてくれようとしている方々がいるから。



だいっかい わたし りょうり で き
「第一回 私の料理が出来る！」

くつきんぐつど
COOKINGGOOD
ほうこく
「くらぶ〜♪」 報告



まるた きみえ
丸田 君枝

さ がつ にち ど とうぶふれんどほー りょうりこうしゅうしつ だいっかいわたし りょうり
去る5月12日(土) 東部フレンドホール料理講習室にて「第一回 私の料理
が出来る！ COOKINGGOODくらぶ〜♪」をかいさいしました。

そうぜい めいあつ りゆう はっぴょう おも おも
総勢7名 集まり、みんなそれぞれこだわりの理由を 発表しあい、思い思い
の料理やデザートを作っていました。やっぱり自分で食べたいものを作って食
べるってサイコー☆☆ 自由に、気軽に楽しめたと思います。自信に繋がった事
もたくさん見つけられたようです。作ったものをみんなで食べ合っ、とって
もシェアワセ気分でした♪





とでん あらかわせん の 都電荒川線に乗って 出かけてきました！ つちや みねかず 土屋 峰和



みずえきんべん す ふだん はあまりつか
瑞江近辺に住んでいると普段はあまり使う
きかい のない、ろせん とでん あらかわせん ちかてつ
機会のない、路線の都電荒川線。地下鉄や
じえーあーるせん ちが とない めずら
J R 線とはちょっと違い、都内では珍しく
ばしよ ろめんでんしゃ
場所によっては路面電車になったりします。
ろめんでんしゃ てれび ではよ み げんざい
路面電車ではテレビではよく見かけるし、現在
ぜんこく なんろせん はし
でも全国に何路線か走っています。しかし、気
にはなっているもなかなか乗る機会には恵ま

れないものです（^{わたくしごと}私事ですみません）。よく利用する路線というのはもちろん
それぞれで、生活の中（せいかつ なか）に溶け込んでいる路線以外は、特に用事などが無い限り
つか つか つか
使うことは無いですよね。路線など乗り物に限らず、たとえそれが近くにあつたとしても…。

そこであえて用事（ようじ）を作（つく）って乗りに
行こう（い）と思ったわけ（おも）です。今回は荒川線（こんかい あらかわせん）を
つか すがも い すがも しやうてんがい さんさく
使い巣鴨まで行き、巣鴨の商店街を散策
する（きかく）という企画。ところがいきなり思わぬ
はぶにんぐ。ほんの数日前に発覚した事（おも）で
すが、この日はナント荒川線新車両発表
いべんと
イベントだったのです。荒川線そのものを
たのよてい いべんとび
楽しむ予定が、イベント日ということで、
でんしゃ ぎゅうぎゅう でんしゃ
電車はギュウギュウ！電車とはいえ、どちらかと言うとバス（い ばす ちか）に近いつくりで、



もともとさほど（ひろ）広くはない車両（しやりょう ろめん はし）。路面などを走る
ふうけい たの
風景を楽しむつもりが、とてもそれどころではあり
ませんでした。残念（ざんねん）っ！

そんな混雑（こんざつ）の中、荒川線は初めて乗った私（わたし）です
が、すぐに気付いた事（こと）があります。それは、ホーム



と車両とのダンス！これがほとんど無いのです。
車椅子でもスロープは必要なく、そのまま乗り降りできるのです。駅とはいえバス停に近い感じなので、これならば気軽に利用できるのではないのでしょうか。

二つ目の目的である、とげ抜き地蔵でも有名な

巣鴨商店街。おじいちゃんおばあちゃんの原宿と言われている所ですが、私の印象としては若い人も割と多いんだなという感じ。そして、もともとお年寄りの多い街と言われているせいか、車椅子でもお店に入りやすい。通り沿いには、とげ抜き地蔵をはじめ

いろいろなお店がたくさん並んでいるのですが、その殆どが車椅子でも入れるようになっています。ユニークなお店から美味しそうな食をそられるお店まで、とても様々です。ちなみに私は、“にんにくせんべい”を買ってみました。これ、凄いですよ。ホントにニンニクなんです(かなり臭いです。でも美味しい)。興味のある方は、是非！



お蕎麦屋さんでみんなで昼食をとったあとは、思い思いの自由行動となりました。散策、お買い物、食べ歩き、お参り…。他にも調べてみればいろいろありそうなので、けっこう楽しめると思います。

参加者は介助者含め12人。荒川線、巣鴨を初めて体験した方もいました。遠方

からご参加くださった向後さんとの出会いもあり、楽しい時間を過ごす事ができました。



と でん あらかわ せん の
 都電荒川線に乗って
 で
 出かけてみよう!



じりつせいかつせんたー くれぱす
 自立生活センター くれぱす

こうご ぜんいち
 向後 善一



みなさま げんき しょうじょう せいの
 皆様、お元気でしょうか。早いもので、
 がつげじゆん あつ ひ とでんあらかわせん の
 5月下旬の暑い日に都電荒川線に乗
 って巣鴨の地藏通り商店街をうろう
 ろしていたと思ったら、秋を通り越し
 て初冬を思わせる今日この頃です。
 いまおも だ ひ にちゅう
 今思い出しますとあの日は、日中
 の最高気温が25度を超えた夏日だ
 ったと記憶しています。というのも、
 びーるず わたし ひる のど かわ
 ビール好きの私には、昼の喉の乾き

がやたら鮮明に残っているからです。話を正常に戻したいと思います。

このイベントに参加して見ようと思ったきっかけは、幼い頃祖父に連れられ
 て初めて東京に来て、路面電車に乗った記憶が微かにあったからだと思います。
 まちやえき じょうしゃ びっくり の ほーむ でんしゃ だんさ
 町屋駅にて乗車してまずビックリしたのが、乗るときのホームと電車との段差
 が全くないということでした。これは、ほとんどの駅で共通した点です。こ
 れは、身体障害の方を始め、視覚障害の方にもとても利用しやすいと思いま
 す。そして、一度の乗車ですが、何区間乗
 っても均一の160円でとてもお得だと
 思います。

また、速度がゆっくりですので、周りの
 けしき ゆか ひと すがた み
 景色や行き交う人の姿がゆったりと見え
 て、とても穏やかなきもちになること、
 う あ い いまじょうえいちゅう
 受け合いです。そう言えば、今上映中の





「ALWAYS 三丁目の夕日」に出
てくる路面電車とだぶってくるのは、
その時代に育った私だからでしょう
か。是非、乗ったことがない方には、
お勧めです。試してください。
話を、巢鴨の地蔵通り商店街に
移動します。20数年前に3年ほど近
くに住んでいた私ですが、こんなにじ

つくりと散歩するのは初めてでした。

新庚申塚駅を下車したらすぐ商店街です。ここも、下町の風情がたっぷり、私
にとっては居心地の良いこの上ない場所です。昔懐かしい「金太郎飴」・「塩大福
の和菓子屋さん」・「漬け物屋さん」等々。その中にも、コンビニ・マツモトキヨシ
など、現在と旧き良き時代が混在して、とても楽しませてくれました。肝心な、
とげぬき地蔵尊の「高岩寺」には、お参りしたかも忘れてしまったいい加減な私
ですが、地蔵そばを食べたのは、なぜ
だか鮮明に覚えています。車椅子を含
め、10数人がいっぺんに入れる場所
を予め調べいただいた土屋さんを
始め事業所の皆様、改めてお礼申し上げ
ます。

また、機会がありましたら是非参加
させて頂きたいと思っております。



福祉機器・介護用品・住宅改造のお問合わせは
お気軽に当店まで！ 自社工場完備で修理・改造がすぐ！

— 福祉機器のトータルプランナー —

有限会社 **パムツク**



江戸川区新堀1丁目25番1号
(レンタル車いす・車いす保険も取扱っております)

TEL03(5666)4801 | FAX03(5666)4802

2007年度 自立生活センターSTEPえどがわ主催

たなばた

かい

七夕の会

ほうこく 報告

たけだ かずみ
武田 和美

去る7月6日(金)、暦より一日早い七夕の会をしました。前日まで、怪しい空模様で心配でしたがSTEPには晴れ男、晴れ女がいるようです・・・！？

今年の七夕は、少し志向を変えてみました。テーマは「夏祭り！！」参加者は一枚100円の手ケットを自分の好きな分だけ購入してもらい、その手ケットで小さな縁日もどき(??)を楽しんで

もらうといったシステム。

事前にSTEPの関係者、事務所のご近所の方々にチラシを配って呼びかけたところ、予想より多くお客様が来てくれました。参加してくれる方に事前に浴衣着て来て

くださいねってお願いしたところ・・・♪じゃじゃじゃーん♪

写真をご覧下さ～い。目にも鮮やかな晴れ着？いやいやゆ・か・たでしょ！！

(印刷の写真は白黒なのがざんねん(*_*;))

内容は、焼きそば、たこ焼き、モツ煮込み、たこせん、とうもろこし、かき氷、ミルクせんべい、焼き鳥、枝豆、ジュース。もちろんビールもチューハイも冷えて

ました。楽しいひと時を過ごせました。

また、来年、再来年と続きますように・・・！！ヽ(^o^)ノ♪



しゅうねん きねんごう
5周年記念号

えぬびーおーほうじん じりつせいかつせんたー すてつが かいほうぼりゆうむ ねん がつかんこう
NPO法人 自立生活センター STEPえどがわ会報 vol.15 2008年3月刊行



ねん ぼらんていあふえすていばるほうこく
2007年 ボランティアフェスティバル報告

ぼらんていあふえすていばる
ボランティアフェスティバルに
だんさなくすんじゃー
ダンサナクスンジャーが
やってきた！！

だんさなくすんじゃー
ダンサナクスンジャー

やあみんな！ダンサナクスンジャーだよ！

へいせい ねん がつ にち だい かい えどがわくぼらんていあふえすていばる かいさい
平成19年7月15日に「第7回江戸川区ボランティアフェスティバル」が開催され
たのはみんな知ってるかな？ボランティアフェスティバルとは、色々な団体が
かつどうしょうかい ぶりーまーけつと たいけんこーな
活動紹介をしたり、フリーマーケットや体験コーナーをやっていたり、とても
にぎまつり
賑やかな祭なんだ。

じつ だんさなくすんじゃー じりつせいかつせんたーすてつぷが いっしょ
実はダンサナクスンジャーも自立生活センターSTEPえどがわと一緒に
ぼらんていあふえすていばる さんか だれ す
ボランティアフェスティバルに参加して「誰もが住みやすいまちづくり」を実現
させる為にPR活動をしていたんだ。沢山の人が僕の事を見て見ぬふりをして
いたなあ。多分ヒーローに間近で会ってみんな緊張していたんだらう。でも
こどもたち よ ばんち きつく あたた せつ
子供達はみんな寄ってきてパンチやキックで暖かく接してくれた。そんな元気
いっぱいの子供達に言いたい事があるんだ。マスクやマントを取ろうとするの
はやめてくれっ！あと僕の名前は「ダサレンジャー」じゃないよっ！！

かいじょう ぱとるーる しょうぼうちやう きやらくたー きゆうーたくん い
会場をパトロールしていたら消防庁のキャラクター「キュータ君」が居た
ので夢のコラボレーションもしたよ。色々な団体と交流が出来たし、沢山の人
と接する事が出来たのでとても有意義なボランティアフェスティバルだったと
おも
思うなあ。

これから「誰もが住みやすいまちづくり」を実現させる為に
だんさなくすんじゃー いろいろ ばしょ しゆつげん
ダンサナクスンジャーは色々な場所に出現します。

またどこかで会いましょう！



ダンサバリアフリー戦隊
ダンサナクスンジャー



ぱりあふりーせんたい だんさなくすんじゃー



↑ きゅーたくん ゆめ ころぼれーしょん
↑ キュータ君と夢のコラボレーション



↑ かいじょう ぼとろーる なくすんじゃー
↑ 会場をパトロールするナクスンジャー



↑ すてっが りじちよう あくしゆ
↑ STEPの理事長とがっちり握手



↑ きゆうけい なくすんじゃー
↑ 休憩をするナクスンジャー

でいーびーあいせ かい かいぎ
DPI世界会議
 かんこくたいかいさん かほうこく
韓国大会参加報告

さけむらたつり
 酒村辰徳

しゅっぱつぜんじつ かんこく しゅと そうる かんこうあんない み
 出発前日、韓国の首都『ソウル』の観光案内ばかり見ていた。・・・いかん！
 いかん！！今回の旅？の目的は『DPI世界会議韓国大会』参加！！！！仕事と
 して行くのだ！！！！という思いに駆られながらも、それはそれで飛行機の中で
 べんきょう かんこうあんない み き
 勉強しようと観光案内ばかりを見ていたような気がする・・・。

かいじょう きんてつくす てふあ てふあ
 会場の「キンテックス」は大化（テファ）
 というところにあり、宿泊先のソウルからは
 くるま じかん でんしゃ のりか じかんはん
 車で1時間、電車だと乗換えもあり1時間半
 はかかる。さらに車椅子だともっとかかるこ
 とは言わずともわかるでしょう。さらにさら
 にい、エレベーターの設置が進んでいない。
 さらにさらにさらにい、言葉が通じない。駅員
 ひっし せつめい えきいん けいたい か
 に必死で説明していると、駅員が携帯を掛け
 はじ ぶれい おも
 始めてしまった。「なんと無礼なっ！」と思っ
 ていたら、その携帯を自分たちに差し出され
 ると、携帯からは日本語が聞こえてくる！そ
 の駅員の日本語が話せる友人に電話を掛けて



いってくれていたのだった。ようやく話の内容が伝わったのはよかったのだが、
 にほん み でき こうけい えすかる かんが
 日本では見かけることの出来ない光景であった。エスカルがあるものの考えら



れないくらい遅く、韓国人は見慣れていな
 いのか注目の的となり、昇降中は変な
 おんがく な ひび きいろ ぼとらんぶ てんとう
 音楽が鳴り響き、黄色のパトランプが点灯
 する。様々な2重3重の困難が立ちほだか
 さまざま じゅう じゅう こんなん た
 り2時間半～3時間かかってしまった。
 とほほ
 トホホ・・・。

そんなこんなで会議に参加。71カ国2700

めいじょう さんかしゃ あつ ぜんたい かいぎ こくれん ねん がつ にち こくれん
 名以上の参加者が集まり、全体の会議ではやはり国連で 2006年12月13日、国連
 そうかい さいたく かこくいじょう くに しよめい しょうがいしゃけんりじょうやく わだい ちゅうしん
 総会で採択し 100カ国以上の国が署名した「障害者権利条約」の話題が中心と
 なっていた。

そしてさまざま ぶんかかい かいさい なか わたし なに ちゅうもく
 様々な分科会が開催しており、その中でも私が何よりも注目してい
 たのは、ぶんかせいかつ れくれーしょん すぽーつさんか さんか
 「文化生活、レクリエーション、スポーツ参加」。その中では“参加”と
 いふいみについて かんが かんが さんか じしよ しら もくてき
 いう意味について考えさせられた。“参加”とは辞書で調べてみると「ある目的
 をもつ 集まりに一員として 加わり、行動をとることにすること」とある。よくよく かんが
 えみると、すぽーつとは おこな さんか かんせん
 スポーツとは行うこと、やることだけが“参加”とはいえない。観戦
 するのもスポーツの“参加”になる。ということは、観戦するにはその会 場
 に行かなければならない(テレビ、インターネットという方法もあるがそれは置い
 といて～)、そこに いくまでの 電車、バス等の 公共交通機関を利用する。他に
 も 観光地に行く場合もいえることだ。



にほん 国内では 公共交通機関等
 の 環境、バリアフリーに 対しての 取
 り組みが 垣間見えるものの、まだ
 だ 十分とはいえない。これは
 「障害者権利条約」の中でもい
 わ れている “合理的配慮” にか
 けてい る、ということになるの
 ではない だろうか。

にほん げんざい この 条約に 署名は
 しているのだが 批准 (批准とは: 全権委員が署名した条約に対する、当事国に
 おける 最終的な確認・同意の手続き) はしていない。もちろん、これにも 様々
 な 論点はあるのだが、例え 署名や 批准を しなくても、国が 率先して この 環境に
 対して だけではなく、生活や 就労 に対して “合理的配慮” に 取り組んで くれ
 れば いいのだが、まだまだ 時間がかかり そうだ。



←ソウル市内の街中で見かけたものです。

これはいったい何???
 障害者用ポスト???

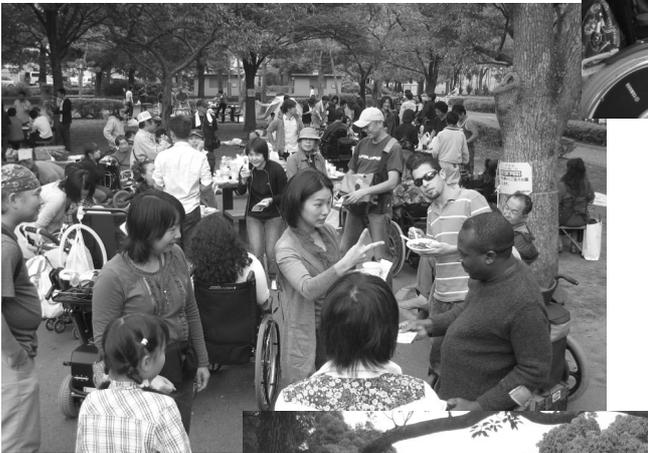
バーベキュー 大会報告

つちや やすよ
土屋 裕代

10月13日に都立篠崎公園にてバーベキュー大会を開催しました。
天気にも恵まれ、準備もスムーズに進みました！みんなぞくぞくと集まり、自然にみんな会話も弾んでいました。今年は初めて拡声機を使用しました！！拡声機を構えた時、始まる？とみんな耳すましてくれていました。全員飲み物を片手にカンパニー。お肉焼けたよと言う声でみんなかけよりました。おなかいっぱいになるまで食べるぞと思いなからみんなそれぞれバーベキュー広場を移動して交流をしました。なんと！！開催して少し落ち着き始めた時にJICA研修生参加者も到着。参加者全員感動です。国は!!!（カメルーン、チリ、コスタリカ）の方達でした。言葉とジェスチャーで交流しました。携帯で写真をとったりして交流をしました。
参加者全員で自己紹介ジャンケンゲームやりました。みんなジャンケンをしてカードを交換しました。自己紹介カードには、好きな色、好きなタレントなどを皆さんに書いてもらいました。
みんなジャンケンに必死でした。カードをたくさん集めて商品ゲット！！
商品は開けてみてのお楽しみでした。
一位 ディズニーランドペアチケット
二位 耳かき（チタン製）
三位 タオルでした。
みんな開けてびっくりやったーあという声が公園内に響きわたりました。
景品！みんなの笑顔が耀いていてイベント主催者としても嬉しい瞬間でした。
みなさんと交流が出来てとても良い一日になって良かったです。
今後ともSTEPえどがわをどうぞよろしくお願ひします。

しゅうねん きねんごう
5周年記念号

えぬびーおーほうじん じりつせいかつせんたー すてつが かいほうぼりゆーむ ねん がつかんこう
NPO法人 自立生活センター STEPえどがわ会報 vol.15 2008年3月刊行





く り す ま す ばーていー ほうこく X'mas Party 報告



まるた きみえ
丸田 君枝

去る 12 月 23 日 (祝) 東 部 区 民 館 に て、「第 4 回 Merry Christmas! みんな集まれ♪人と人とのつながりはクリパ!!」を、開催しました。今回も約 51 名の人達と楽しい時間を共有出来たこと、とても嬉しかったです。

赤ちゃんから小学生、中学生、高校生、そこそこ大人からほど良い大人まで? 様々な顔ぶれが揃い、今年一年、こんなにたくさんの人との出会いや触れ合いがあってやってこれたんだなあ…と、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そして、恒例の出し物!! まず一発目は、飛び入りで、爽快なトランペット演奏! 毎度ありがとうございます! 自慢の歌あり、デュエットあり、子供たちが釘付けのテールマジックに、迫力のドラムスネアソロ、ギターとのセッション、自作の物語で演技力抜群のミュージカル、そして、今年も街のダンスをなくすため、ますますパワーアップして? 帰ってきた『バリアフリー戦隊 ダンサナクスンジャー』、それぞれの個性が溢れんばかりで、見ている方も自然と引き込まれていき、とっても盛り上がりましたね!

ビンゴゲームにも工夫を凝らし、「名前でビンゴ! (仮称)」!! 自己紹介を兼ねて知らない人、初めての人にも声をかけ、名前を交換し、空白の 24 マスを 24 人の名前で埋めて、自分だけのビンゴカードが出来るという仕組み。説明不足な部分もありましたが、恥ずかしながらも交流を深めるひとつのキッカケになれたかと思えます。

さらにさらに、準備や料理にもたくさん個性ある力を発揮して頂けて、いっしょに濃厚なクリパとなりました♪

色々お手伝い頂いた方、盛り上げて下さった参加者の皆様、ありがとうございました。忙しい中での開催になったけど、力を注いでくれたスタッフ全員にも感謝!! みんなの力を感動的に感じる事が出来ました。

こんなにステキで笑顔がいっぱいな時間、また今年もみんなで作っていきたいと思えます。

しゅうねん きねんごう
5周年記念号

えぬぴーおーほうじん じりつせいかつせんたー すてっぶ かいほうぼりゆーむ ねん がつかんこう
NPO法人 自立生活センター STEPえどがわ会報 vol.15 2008年3月刊行



しゅうねん きねんごう
5周年記念号

えぬびーおーほうじん じりつせいかつせんたー すてつぷ かいはうぼゆーむ ねん がつかんこう
NPO法人 自立生活センター STEPえどがわ会報 vol.15 2008年3月刊行



勝矢光信の情報発信!! コーナー



たまには、セレブってみましょう？

都心の新しいホテルのラウンジでお茶するのは、独身女性の唯一の豪華な時間らしい。仕事に疲れた女性は、高級感に浸る喜びを自分で造りだしている。

高級ホテルに泊まる金銭的余裕は無いが、お茶ぐらいで最高級な気分になれるなら、お安いぜいたくだと思う。

障害者も、少なくとも私個人は、セレブすることで、さみしさを一瞬でもいから消してみたくある時がある。

今回、セレブ度を、コーヒーの値段で比較している。先日行った東京ミッドタウン内「リッツカールトン」はコーヒー1600円だった。45階にある。窓の高さが70cmくらいなので、車イスでは真下を見渡せないが、広角な東京展望を味わえる。1億円もする芸術作品が周囲に飾ってあるので、リッチな気分になる。

新宿の東京ガス「パークタワー」にある大人の隠れ家「パークハイヤットホテル」屋上のラウンジは、ガラス張りで、360度見渡せる。1320円。夜景はもう、死にたくなるほど美しい。ゆるい段が2段あって、介助してもらおうのも、セレブ。

日本橋の三越の横、三井タワー38階にある「マンダリンオリエンタル東京ホテル」1200円。ここが一番、気に入っている。なぜならば、全面ガラスで、足元に東京の全貌が広がっているからだ。

お手ごろは、汐留の23階「コンラッドホテル」900円。真下が浜離宮で、東京湾が見渡せる。広いガラス面で、ゆったりした気分になる。

でずにーすかたすすでずにーちよくえいほてるみらくすたえん
デズニーの好きな方にお勧めは、デズニー直営ホテル「ミラコスタ」700円。
えんないみわた
園内が見渡せる。

はいこーひーほてるじゅうぶんたのりっちきぶんていちょう
1杯のコーヒーで、どこのホテルも十分楽しめる。リッチな気分で、丁寧な
あつかいをされるので、抑圧された気分は、いっきに吹っ飛ぶ。東京の景色は
ほんとうに美しい。特に、夜景はうっとりするほど美しい。都心を走る車の
てーるらんぶつらあかるびーくびかざみとうきょうじゅうくりすます
テールランプが連なって、赤いルビーの首飾りに見える。東京中がクリスマス
ツリーの電飾になって、甘い夢を見させてくれる。

さみしさがせれぶることで満たされるなら、それも幸福追求の一部である。そ
して、自分へのごほうびで、明日からの元気を養えるなら、安いものだと思う。



ぶれーかーおゆうしょくどきだいどころはいでんしれんじれいとうはん
ブレイカーが下りた：夕食時だった。台所に入って、電子レンジで冷凍ご飯と
さけあたたほつとでんげんいぶんとつぜんぶれーかーお
鮭を暖め、ポットの電源を入れた。1分ほどしたら突然、ブレイカーが下りて、
くらでんきつかぶれーかーてとどまくらなか
暗くなった。電気の使いすぎだった。ブレイカーには手が届かない。真っ暗な中、
てさぐはらはらはすいている。のどもからからでんしれんじなかてさぐ
手探りだった。腹はすいている。のどもからカラ。電子レンジの中を手探りす
ると、解凍途中のヌルツとした肌触りの鮭と、まだ冷たいままのご飯。半ナマ
じょうたいかいとうすすたこおり
状態だった。すこしでも解凍が進んでいけば、食べてしまうのだが、まだ、氷
のようなご飯。これではどうにもならない。せめてお湯だけでも口に入れたいが、
ぼつとでんきつうゆで
ポットは電気が通じていないと湯が出ない。しょうがないので、あきらめて、
れいぞうこてさぐしよくぼんだひときみず
冷蔵庫を手探りし、食パンを出して一切れかじった。そうしたら、よけいに水が
ほれいぞうことじじかんすいてきゆか
欲しくなった。冷蔵庫も止まってしまい、9時までの2時間に水滴になって、床
をびしょびしょにしそうで、こわかった。てさぐうざら
手探りで、受け皿やぞうきんをさがし
た。ぶんめいせいかつでんききがしがるばーくよる
た。文明生活は、電気が切れると、餓死につながるのだった。ヘルパーの来る夜
の9時までどうしよう？まくらなかけーたいへるばーはけんがいしゃいま
ケータイでヘルパー派遣会社に、今すぐ
の派遣を問い合わせたが、すぐにはムリと言われるしまつ。すなっくた
はけんとあむりい
スナックを食べて、
てれびいんたーねつとおもてれびこんびゅうーたーみ
テレビかインターネットでもと思うが、テレビもコンピューターも見られな
った。おーどりへつぷ。ぼーんしゅえんえいがくらまおもだ
オードリヘップバーン主演映画「暗くなるまで待ってね」を思い出した。
ま
待ってられない。9時になるのがまちどうしかった。生きていると、いろいろ

な事件があるものですね。障害者の皆さん、常々、細心の注意を持って生きていきましょう。

追伸：トイレも今や電化されて、停電だと、落ちたフンも湯気を立てたままじっとしているのだろう。お尻は、紙があるからなんとかなる。風呂のシャワーも出ないかもしれない。ブレーカーなら復旧するが、大地震などの場合、そうはいかない。何か、日ごろから考えておいた方が良い。



忘れ上手・甘え上手：日本語は、なんて美しいのだろう。認知症、ボケなど、人格を傷つける言葉を避けて、優しく包み込む表現がある。そんな日本語に出会える喜びが、人生を豊かにする。依頼心の強い人も「甘え上手」という、素晴らしい表現がある。「ボケた」「頼りすぎだよ」と罵倒しないで、「忘れ上手になったね」「あの人は甘え上手だ」なんて言われたら、けんかにもならない。老人も「生きみたま」と言われれば、尊く聞こえ、思わず、手を合わせたくなる。昔から、障害者のいる家庭では、重度障害者を「生き仏」と呼んでいた。ゴミのように捨てられ、忘れ去られる老人、施設に入れられる障害者、こんな歴史は太平洋戦争が激しくなったからの、そして、急速な産業発展社会になってからにすぎない。江戸時代は、老人も障害者も子供達もとても大切にされていた。痴呆老人・重度障害者は社会の重荷だろうか？視点を換えれば、その存在に無限の幸福を感じてくる。忘れっぽくなることで、甘えたくなることで、死をやすらかに迎えられる。恐れることなく、死を受け入れられる。生きたまま仏になっていくって、すてきなことです。「生きみたま」と呼ばれ、「忘れ上手」とほめられ、「甘え上手」と言われ、何の苦痛も感じないまま死を迎えられたら、こんなに良い人生は無い。



しん す た つ ふ しょう かい 新スタッフ紹介



つだ ひろし
津田 浩史

ご存知の方も多いかと思われませんが、この度、社員になりました。津田 浩史と申します。STEPではバイトとして5年働き、現場から社員というステップを踏むことにより、新たな可能性を求め活動し、まだ、自分を含め多くの人達の関わりが未熟で歯がゆい所もありますがSTEPに関わる人達の声を一人でも多く訊いてお互いの環境より好くし、個々の能力や発想や個性を生かしていけるSTEPにして行きたいと思っております。

それと、ここSTEPには他では無い自由と人権を大切にする意識があります。この無限の可能性と擁護に一人一人が解放され自分とその関わる人達の繋がりが広まってゆくことにCILSTEPであり人の成長のステップがあると感じていきます。目先に追われず長いスタンスを置いて考えてゆく、また、焦るのではなく自分の歩幅で歩く勇気を持つ。偉そうな事を書いてしまいましたが、これは、5年の経験から感じたことです。これを実行するにはかなりハードルが高く調和を乱す事にもなりますが、人と人は違った存在が共存しあえて共に生活・生きることだと感じてます。自分も勇気をもって自分の歩幅で歩く行動をした時より、自己の限界から強固に行動した(介助で追い詰められてどうしようもなくなった時に相手に自分の気持ちを強く訴えた)ことの方が多いたのですが自分という存在をいかに他人との共存をはかるか、それは自分の中に相手がいる、相手の中に自分がある意識を持つことだと、今頃ここに気づいたところなんです。

まだ、何分至らないところが多いかと思いますが皆さんと共に頑張っていきたいと思います。

非社会的モヒカン頭の社員ですがよろしくお願ひします。m(_)_m

会員募集

STEPえどがわは、STEPポリシーとSTEP訓の下、障害者の自立生活に係わる様々な問題に取り組み、ひいては地域に根ざした社会貢献団体になることを目指しています。

つきましては、当法人の活動趣旨にご賛同いただける皆様に会員（正・賛助）になっていただき、共に自立生活センターSTEPえどがわを支え、育てて下さる仲間を募集します。

正会員（正会員は、当法人の定款に定めた総会に参加できます）

・登録料 5,000円（入会時のみ）

・会費 5,000円／年

サポーター会員（賛助会員）

・個人 1口 3,000円／年（1口以上）

・団体・法人 1口 10,000円／年（1口以上）

会員には、当法人の刊行物、イベント案内チラシ等を送付致します。

会費納入先

<郵便振替>

自立生活センターステップえどがわ No.00110-0-579238

<銀行口座>

特定非営利活動法人自立生活センターステップえどがわ

三菱東京UFJ銀行 瑞江支店普通 0548550



ひょうし しょうく だいじ いたう けいこ
表紙 「祝」題字 : 伊藤 圭子



ひょうし しゃしんていきょう はなしん
表紙 写真提供 : 花信

きょうりよく
ご協力ありがとうございました！！

編集後記

へん しゅう こう き

たくさん なた ささ むか でき しゅうねん
沢山の方に支えられ、迎えることが出来た5周年。

いろ できごと
色んな出来事がありました。

かいほうし つう さまざま じょうほう はっしん
会報誌を通じて、様々な情報を発信し、

あら で あ はっけん
また新たな出会いや発見を

かさ い おも
重ねて行きたいと思っています。

こんご
今後も

『どんなに重度な障害があっても地域で当たり前暮らしたい！』

おも しゃかい
みんながそう思える社会を、

つく い おも
みんなで作って行きたいと思ひます。

よろ ねが いた
どうぞ宜しくお願い致します。

へんしゅうぶだいひょう まるた
編集部代表 丸田

とうきょうとしていきたくしえんじぎょうしゃ
東京都指定居宅支援事業者
とくていひえいりかつどうほうじん えぬびーおーほうじん
特定非営利活動法人(NPO法人)

自立生活センターSTEPえどがわ
じりつせいかつ すてっぷ

とうきょうと えどがわ くみなみのざきまち

〒133-0065 東京都江戸川区南篠崎町3-9-7

tel : 03-3676-7422 fax : 03-3676-7425

main@step-edogawa.com

<http://www.step-edogawa.com/>

